

8月30日(月曜日)

ドル/円

日銀の対応に市場の関心が集まる

27日(金)の主な推移

チャート: 30分足 27日(金)朝6時 ~ 28日(土)朝6時

NYダウ平均

10150.65ドル
(+164.84ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.6447%
(+0.1603%)

NY原油先物

75.17ドル
(+1.81ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

①

昼過ぎに一部メディアが「菅首相が本日中の記者会見で円高対策の方針を表明する」と伝えたことを始め、野田財務相からの円高けん制発言に加え、経済産業省からの円高の影響に関する調査結果が出たことも加わり、市場では政府・日銀に対する円高対策への期待が高まった。これによりドル/円は反発した。その後17時過ぎに首相から「必要な時に断固たる措置を取る」「円高など厳しい経済情勢を踏まえ8月31日に経済対策の基本方針を決定」などが述べられたが、市場での反応は限定的であった。

②

米第2四半期国内総生産(GDP)・確報値は前期比年率で+1.6%と、事前予想(+1.4%)を上回る結果となり、ドル/円は一時85円台前半まで上昇した。

③

米インテルが第3四半期の業績見通しを下方修正したことが伝わると、サーキットブレーカーが発動し、一時インテル株の取引が停止された。これを受け市場ではリスク回避の動きが強まり、NYダウ平均が急落。ドル/円も一時84.38円まで下落した。しかしその後米国の金利や株価が反発したことや、バーナンキ連邦準備制度理事会(FRB)議長は講演にて、「必要に応じて金融緩和を行う用意はある」と発言。これらが手掛かりとなり、その後ドル/円は85.45円まで上昇した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 84.90— 86.40円

本日、臨時の日銀金融政策決定会合が開催されることとなった。また昨日、白川日銀総裁は急きょ予定を早めて帰国しており、14時半からは総裁の会見も予定されている。30日早朝の為替市場ではこれらの報道を受けて金融緩和策への期待が高まり、円安が進行している。

今回の会合では、日銀が長期国債買い切りの増額といった、思い切った策に出るかどうかのポイントと見られる。仮に今回の緩和策が新型オペの増額(20兆円→30兆円)や、期間の延長(3ヶ月→6ヶ月)といった市場で既に織り込まれている内容に留まる場合、市場の失望を誘い円高・株安が進行することが予想される。

また総裁の会見が本邦の株式市場が開いている時間帯に予定されていることから、株安や円高の進行に対するメッセージが出るのではないかと期待が高まっており、こちらにも注意したい。(川畑)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/30(月)	09:00	◎	(日) 金融政策決定会合	—	—
	14:30	◎	(日) 白川日銀総裁会見	—	—
	21:30		(米) 7月個人所得 [前月比]	±0.0%	+0.3%
	21:30		(米) 7月個人支出 [前月比]	±0.0%	+0.3%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com